



認知症ケアチームの 取り組み

精神科医長 立脇 信彦

砺波市における高齢化率（65歳以上の方の割合）は28%と全国平均をわずかに上回っており、今後その割合は増加すると予測されています。また、我が国の65歳以上で認知症を患った方は2012年時点でおよそ460万人と推計され、高齢者人口の増加に伴い2025年には700万人を超え、65歳以上の方の5人に1人が認知症になることが見込まれています。

高齢の入院患者さんに起こりうる症状

身体の病気で入院治療が必要となる場合、もともと認知症であった方に限らず、その兆候がなかった方でも身体の不自由や苦痛に加え、入院という生活環境の変化などトレスから混乱が生じ、精神的苦痛や不安を強く経験することがあります。また、それに伴いもの忘れが進行したり、不機嫌・怒りっぽくなったり、幻覚・妄想、徘徊などの症状がみられることもあります。その

結果、点滴を自ら抜いてしまうなど身体の病気の治療に支障を来したり、転倒や骨折をしてしまうことなどが懸念されます。

認知症ケアチームとは？

診療科を問わず、入院した高齢の患者さんにおける不安や混乱などの苦痛を最小限に抑え、身体の病気の治療を安全・円滑に受けられることを目的に活動しています。

当チームでは医師2名（精神科医）、認知看護認定看護師、薬剤師、作業療法士、臨床心理士、ソーシャルワーカーがそれぞれの専門性を活かし、患者さんのさまざまな問題に対して主治医や病棟スタッフと協力しながら入院生活の支援を行います。

認知症ケアチームの活動内容

認知看護認定看護師を中心にチームメンバーが各病棟を訪問し、患者さん、ご家族からお話をうかがったり、病棟スタッフと情報を共有します。患者さんの生活歴や全身状態などをふまえ、個別的なケア方法を計画・実施し、必要に応じて各チームメンバーが介入しながら振り返り、検討したうえでさらなる個別的な援助へとつなげていきます。

具体的には、
・ 認知機能（記憶力や判断力など）の評価や検査

・ 環境調整、ケア方法の計画と実施、薬剤調整の提案
・ チームメンバーでのカンファレンス、病棟ラウンド
・ 退院後の生活についてサビズ調整のアドバイスや家族支援
・ 院内での勉強会の実施：認知症のケアについて知識や技術の向上を目指し定期的に研修会や事例検討会を行っています。

このような活動を通じて患者さんが安心して穏やかな入院生活を過ごし、できるだけ早期に退院して日常を取り戻せるよう支援させて頂きます。何かお困りのことやご不明な点などございましたら、病棟看護師やチームメンバーまでお気軽にご相談ください。

